
雨の日

神月きのこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨の日

【Nコード】

N0531B

【作者名】

神月きのこ

【あらすじ】

ここ数日降り続ける雨。ボクは、外に出たくてたまらなかった。

あの冷たい雨の日に
差し出された手は
今まで感じたことがないくらい
とても…

毎日、毎日、降り続ける雨。

ボクはテーブルの上に座って、灰色の空を見上げた。
雨は嫌いじゃないけれど、それでもお部屋に閉じこもってばかり
はつまらない。

晴れていたら、お庭で遊ばせてもらえるのに。

ピョン、とテーブルから飛び降りると、ボクは玄関に走った。

前足を上げて、目いっぱい上に向かって伸ばすけれど、ドアのノ
ブにはあとちょっとで届かない。

ボクはなんだか悲しくなって、ドアを何度も叩いた。

——ワン、ワウン——

そうしているとパタパタと足音が聞こえてきた。お兄ちゃんの足
音だ。

「ユウ…？ 外に出たいのか？」

お兄ちゃんは無愛想だけれど、とても綺麗な男の人だ。
わふ、とボクは答えるのだけれど、お兄ちゃんはボクの前足の下
に腕を入れて、ドアからボクを引き離してしまう。

「あとで散歩に連れてってやるから、少し我慢してろよ」
違う、違う、そうじゃないんだよ。

お散歩も大好きだけど、そうじゃないんだ。
雨の中で、遊びまわりたいんだよ。

ボクは必死に訴えるのだけれど、お兄ちゃんは問答無用とばかりにボクを部屋の中に引っ張っていつてしまった。

「まったく…雨が好きなんで、変なやつだな」

拗ねて部屋の隅に丸まっているボクを見て、お兄ちゃんは困ったように笑った。

でもね、お兄ちゃん。

ボクにも、雨が好きな理由があるんだよ？

生まれてすぐ、ボクは独りになった。

その頃ボクは、雨が大嫌いだった。

いつも独りで空を見上げていたけれど、空が暗いと心細さが増すように。

寒くてずっと、身を丸めていた。

そんなある雨の日のこと。

『こんなところに…捨て犬か…？』

冷たい声、冷たい瞳をした、雪のように綺麗な人。

その人の冷たい顔が、怖かったけれど、だけれど、伸ばされた手は優しかった。

独りじゃなくなったのが、雨の日だから。

だから今は、雨が好き。

差し伸べられた手は冷たかったけれど。

ボクにとっては何よりも温かかったんだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0531b/>

雨の日

2010年10月16日01時08分発行